2007年度夏季合宿研究会（静岡・浜松）行程

社会科学研究所　所長　内田　　弘
事務局長　村上　俊介

参加者21名

行程

8月1日（水）

13:30　JR静岡駅新幹線改札出口集合

15:00　静岡県庁産業部技術振興室訪問・ヒアリング（～17:00）

（静岡市内宿泊）

8月2日（木）

08:14　静岡駅発（→8:40浜松駅着・バス乗車）

09:30　浜松ホトニクス中央研究所訪問・ヒアリング（～11:00）

11:00　浜松ホトニクス出発

（昼食）

13:30　スズキ自動車湖西工場訪問・見学・ヒアリング（～16:30）

16:30　スズキ出発→浜松市

（浜松市内宿泊）

8月3日（金）

09:00　静岡県工業技術支援センター訪問　光化学の実用化デモ、実験装置見学

10:30　テクノフロンティア浜松・浜松都田インキュベートセンター内の企業訪問

11:30　浜松知的クラスターについてヒアリング

技術的側面から　　支援センター　神谷研究主幹

地域産業面から　　浜松知的クラスター本部　柴田事業総括

12：30　終了　JR浜松駅にて解散

夏季合宿研究会で静岡を選んだのは、1990年代の不況期に低迷し、また中国の製造業発展に苦しい対応を迫られている日本の「製造業」の中で、特に浜松市を中心とする西部の多様な製

造業が、こうした苦境にどのように対応しているのか、製造業の浜松に着目して、それを知りたいと思ったからである。

事前研究会には竹内宏氏（静岡総合研究機構理事長）を招いて、静岡とりわけ浜松企業の元気の良さについて、静岡県の文化的背景を交えながらの報告をしてもらった。その後の合宿研究会は上記の行程でよどみなく進行した。

8 月 1 日、静岡県庁産業技術振興室を訪問し、そこで静岡県経済の概況について、特に「ものづくり」に強い県である静岡の現況や、静岡県としての起業家支援、あるいは静岡県の課題であるサービス部門強化について話を伺った。また静岡県を東・中・西に分けて、それぞれの地域的特色を生かした産業クラスター形成＝「静岡トライアングルリサーチクラスター形成事業」に産業部商工業局が力を入れていることについて説明を受けた。このヒアリングでは県庁産業部技術振興室主査・勝又氏、同・望月氏、産業部管理局・大畑氏、産業部産業集積室・長谷川氏にご協力いただいた。

質疑応答では、県東部（伊豆）における観光業の不振が話題となり、県としては外国の観光客誘致のための工夫を模索しているとのことであった。また製造業の強さについては、地場産業系（家具、紙など）はより一層強化したい状況であるが、静岡はマザー工場が多く、整理統合の際にも残るから、製造業は全体としてはそれほど落ち込まないとのことだった。

8 月 1 日　県庁でのヒアリング

8 月 2 日、静岡市から浜松市に移動し、午前中は浜松ホトニクス（株）中央研究所を訪問した。あの「スーパーカミオカンデ」の光電子増倍管製造で有名なこの企業は、光を用いる技術（半導体レーザー、光 CT 測定、光無線、光情報処理など）の開発・応用で世界の最先端企業である。われわれへの応対は社長室長・吉田氏、研究所内では室長代理・溝渕氏、渉外部グループ長・小楠氏、研究主幹・早川氏に担当いただいた。

午後はスズキ自動車湖西工場を訪れた。湖西工場はスズキ自動車６工場（二輪と四輪）のひとつであり、1970 年より稼働しており、敷地内には第一工場と第二工場およびノックダウン工場に分かれている。まず次長の鈴木秀則氏から工場の説明を受け、2006 年までのここ数年間、生産が伸びており、現在は生産能力の限界にあるほどの好調さが紹介された。

質疑で話題になったのが、2007 年７月に発生した新潟県中越沖地震によるリケン柏崎工場の被災による部品供給ストップの影響についてだった。多くの自動車工場のラインをストップさせたこの天災が、われわれの訪問直前のことだっただけに、当然これに感心が向いた。鈴木次長によると、湖西工場では７月 19～24 日の５日間工場がストップした。これを補うために、夏休みを削ってこの５日間を回復し、秋には通常に戻るだろう、とのことだった。

従業員構成に関して、正社員 2,000 名、派遣や期間工員が 800 名、「社内外注」が 1,000 名でほぼ日系ブラジル人とのことであった。スズキの工場は静岡県に集中しているが、そのメリットとして、人材が有効に移動しやすいとのことだった。またハンガリー工場の立ち上げなど、ヨーロッパ市場の現況についても質疑があった。その後、第二工場の見学が行われた。

8 月 2 日　スズキ自動車工場

8 月 3 日、この日の午前中までが今回の調査研究旅行の日程であった。この日は浜松市北部にある静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センターを訪問した。静岡県には４つの工業技術研究所があり、県西部地区に位置するその中の一つがわれわれの訪問先だった。この研究所では、応用技術開発、技術相談、委託実験、講習会などが行われている。こうしたことをセンター長の鈴木敏博氏から伺い、センター内の案内・説明は同センター研究主幹・神谷氏によって行われた。ここでは主にレーザー計測、半導体レーザー、パルスレーザーの応用技術開発が行われており、それぞれの実験室を見学した。

そのあと、センターと隣接する起業支援のための施設テクノフロンティア浜松内の施設に所在する、起業したばかりの「イノベーティブ・デザイン&テクノロジー」社（電解処理による冷房のための冷却塔内汚れ除去装置開発・電解焼酎製造、2005 年設立)、同じく起業支援のための施設「浜松都田インキュベートセンター」内にある、新しいが起業後何年か経ている「ハママツ・メトリックス」社（超高速多体計算加速ボード、DVD 等の品質測定器製造、2000 年設立）を訪問した。いずれも独自の技術を核として事業展開を始めた個性的な企業である。

この二つ企業の訪問の後、浜松地域知的クラスター本部事業総括・柴田義文氏による、浜松地区の産業の歴史と現在あるいはその特徴、地域による技術支援（特に光技術を重視）の重要性、およびその現況などの包括的な解説が行われた。

8 月 3 日　工業技術支援センター前にて

8 月 3 日テクノフロンティア浜松にて

以上、2007 年度社研夏季合宿研究会行程の概略である。細部に関しては、以下の参加者による報告に委ねる。

今回の夏期合宿研究会準備から実行までに、多くの方々のお世話になった。ここまでに名前を挙げた方々だけでなく、特に準備段階では、静岡総合研究機構専務理事・谷和美氏に、浜松工業技術支援センターの訪問をアレンジする上でたいへんお世話になった。これらの方々に記して感謝したい。